

## 第2回柏・我孫子・鎌ヶ谷地区地域協議会 記録

1 日 時 令和5年2月10日（金） 午後1時30分から3時30分まで

2 場 所 東葛テクノプラザ 第1研修室

3 出席者 15名／15名

### 4 概 要

#### (1) 第1回柏・我孫子・鎌ヶ谷地区地域協議会の記録（案）について

委員に確認し、承認

#### (2) 「県立学校改革推進プラン」再編対象校に係る成果と課題について

資料1「県立学校改革推進プラン再編対象校に係る成果と課題について」に基づき、事務局より説明

#### (3) 公立中学校卒業者の状況について

参考「公立中学校卒業者の状況」に基づき、通信制高校への進学状況について事務局より説明

#### (4) 東葛飾高校医歯薬コースの進路状況について

参考「東葛飾高校学校案内」に基づき、過去3年間の医療系大学への進路実績について事務局より説明

#### 【 委 員 】

東葛飾高校の医歯薬コースについて、成果はどうか。

#### 《 事務局 》

参考のとおりである。高校時代にモチベーションを高められるなど、手応えは感じている。

#### 【 委 員 】

医歯薬コース設置に関して、柏市医師会の全面的な協力があつた。コースの在り方として、医学部、薬学部に進学させればよいというわけではなく、医者として生命倫理を含めて、地域で未来の医者を育てていくものであるという印象を強く受けた。

#### 【 委 員 】

希望者が40名となっているが、コースに入るための選抜があるのか。

#### 《 事務局 》

選抜はない。最大人数が40名となる。年度によって希望者の人数に幅はある。

#### 【 委 員 】

ありがたいことに、柏市の医師会からは様々なバックアップがあり、コースが成り立っている。

#### 【 委 員 】

医歯薬コースだと予備校のようにならないか。

#### 《 事務局 》

先ほどの成果と課題でもあつたが、入学した生徒の保護者の中には、予備校と同じような受験テクニックが学べるコースであると思われる保護者もいる。勉強のテクニックを磨くのではなく、心を磨いて医歯薬へのモチベーションを高めるコースである。受験勉強も必要であるので、カリキュラム内で実施するのではなく、時間割に外付けして、プラスアルファでコースの取組を実施している。

#### 【 委 員 】

承知した。

#### (5) 柏・我孫子・鎌ヶ谷地区の県立高校の在り方について

#### 【 座 長 】

「普通科及び普通系専門学科・コース」、「職業系専門学科・コース」、「総合学科」、「社会のニーズに対応した教育」について、質問や意見をお願いしたい。

①「普通科及び普通系専門学科・コース」、「職業系専門学科・コース」について

《事務局》

柏・我孫子・鎌ヶ谷地区に設置した学科・コースについて、この地区の県立高等学校についてよくご存じの委員から各委員に説明してもらい、補足があれば事務局からお願いしたいと考えるが、どうか。

【委員】

柏高校の理数科では、文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受け、5年を1つの期間として、3回繰り返し、計15年間、探究の学びを行ってきた。我孫子高校の教員基礎コースについては、設置してから間もないことから大学の卒業生は出ていない。鎌ヶ谷西高校の保育基礎コースについては、学校独自に取り組んでいた素地があったところに県教育委員会がお墨付きを与えて令和6年度設置することとした。東葛飾高校の医歯薬コースについては、先ほど報告のところでも触れた。我孫子東高校については、生徒募集が厳しい学校の中では比較的倍率が出ている学校であり、福祉コースを設置した。単純に普通科だけで生徒が集まってくれる状況ではないので、各校が知恵を絞るとともに、県教育委員会と相談しながら特色を出してニーズに応えるため、学びの機会を提供している。

【委員】

生徒のニーズに対応し、特徴がある学校はよい。

【委員】

経営者の立場からすると、地元・地域で応援し、人材を育てていきたいという思いがあるので、学校だけに任せるのではなく、地域を使ってもらえたら、学校にとってプラスになると思う。

《事務局》

柏・我孫子・鎌ヶ谷地区は、柏高校の理数科と柏の葉高校の情報理数科以外は普通科であり、その中で特色としてコースを設置してきた。今後、プログラムの策定に向けて、この地域に合う専門学科、コース、学び、ニーズなど意見を伺いたい。

【委員】

我孫子市においては、我孫子高校に教員基礎コースが設置されており、地元の小学校で生徒の実習を受け入れている。我孫子市では今年度からすべての小・中学校をコミュニティスクールとし、地域とともに歩む学校を意識していくこととしたことから、地元の高校や大学との連携を意識していきたい。これまで教員基礎コースの選択者は、地元のボランティアや行事に参加していただいているが、教員不足という課題もあり、教員基礎コースの魅力発信のため、今後も協力していきたい。社会で必要とされる人材として、福祉、看護などの分野においても学科やコースが必要であると思う。教員基礎コースの選択者は小・中学生と年齢も近いということもあり、今後もWin-Winの関係であるとよい。

【委員】

鎌ヶ谷市においては、鎌ヶ谷高校と鎌ヶ谷西高校があり、鎌ヶ谷西高校では、地元の小・中学校、高校においてクリスマスコンサートを開催し、小・中学生が間近で高校生の様子を見ることができていたので、子どもたちが高校生になると将来こういう経験ができるんだと思ってくれる機会になっていたと思う。また、チャリティーとして、各校の児童会・生徒会役員が不要な服を持ち寄り、バザーを開催していた。また、鎌ヶ谷高校では夏休みのボランティアで小学校において国語や算数の学習アドバイザーを引き受けてもらっており、交流ができていた。令和6年度から鎌ヶ谷西高校に保育基礎コースが設置されると、さらに保育園との交流が生まれてくるようになり、良いと思っている。地元の中学校の校長から話を聞くと、普通科の中で保育や福祉の資格が取れると良いという意見が出てくる。先ほど事務局からの報告で東葛飾高校の医歯薬コースでは1時間外付けの特別なカリキュラムであることが分かった。そこで、質問であるが、コース設置の場合については、一般的に外付けで実施されるのか。

## 《 事務局 》

高校のシステムについて、皆様、普段触れていないので分かりにくいところがあると思うので、説明すると、まず、普通科以外に、理数科、工業科、商業科などの専門学科があり、その専門学科においては、その専門の学びに関する単位を、3年間で25単位以上取得しなければならない。一方、コースにおいては、何単位実施するなど一切縛りが無い。自分の夢に向けてそのコースの学びを生かすということであれば、それで、ある意味成功なわけである。福祉においては、旧ヘルパー2級の資格である介護職員初任者研修修了者資格を取得できる。コースを選択した生徒には100%資格を取得させようということで、実際ほぼ100%取得できている。そのためには、3年間で10単位程度必要である。松戸向陽高校の福祉教養科ではさらに高度な資格である介護福祉士の合格が100%達成した。福祉は、実は資格と直結しており、そのために資格取得のため、ある程度学ばなければならない。教員などは高校で資格が取得できないので、これらのコースにおいては、心を磨く取組をしている。上級学校に入学できるよう普通科の学びも疎かにせず、外付けのカリキュラムが多くなっているという事情がある。

## 【 委員 】

布佐中学校は我孫子東高校に近接しており、コロナの影響で直接的な交流は止まっているが、以前は他の小学校と本校が我孫子東高校と交流を実施していたと聞いている。また、地元ではお祭りに神輿の担ぎ手として高校生に入ってもらっていたとも聞いている。我孫子東高校は地元なので、進学する生徒が多数いるが、本校の3年生を対象に一人ずつ進路の面接をした際には、我孫子東高校の福祉コースで学びたいという生徒がいた。我孫子東高校で資格を取得できるということも志望理由としてあると思うが、中学のうちに目標が明確にある生徒にとっては、福祉コースなどにおいて資格が取得できるというのは、とても良いことではないかなと思う。また、我孫子高校の教員基礎コースについては、私も興味があるが、教員基礎コースの選択者数などはどうなのか。また、今後、その選択者たちが実際にどのぐらい教員になるのか、追跡調査を実施し、現状を把握していくことが必要であると思う。そして、一人でも多く教員になってほしいと強く思う。普通科の中にコースを設置し取り組んでいるのでたくさんの時間は取れないと思うが、うまく実習を3年間の中で組み込み、コースで学ぶ子どもの意欲が高まるようなコースの内容になったら良いと思う。保育コースでもそうだと思うが、コースで学んだ楽しい経験によりコース選択生徒の意欲が高まると思う。これは要望であるが、我孫子高校での1年1クールについては、3年間で計画的に調整して行ってほしい。

## 《 事務局 》

我孫子高校の教員基礎コースにおいては、まだ大学の卒業生を出していないので、今後実施する追跡調査により確認していきたい。我孫子高校の教員基礎コースのやり方が、他の教員基礎コースと違う部分は、できるだけ多くの生徒に学ばせたいという思いから毎年コースを選べるようにしている。3年間継続して学ばせようとする、選択者数が20人から30人が限界になってしまう。それに対して、毎年選べるようにしている我孫子高校では、裾野が広がるという点で、とても大きなメリットがある。ただ、3年間、別々の教育課程を作るのは、なかなか教員も厳しいところがあり、似通ったことを毎回繰り返すという現状がある。一長一短はあるが、毎年選択する生徒にとってみても、小学生などは毎年変わるし、連続して学ぶ生徒はそれだけやる気があるので、繰り返し学んでいけるという利点はある。したがって、県教育委員会から高校に対してこうしてほしいというものはなく、高校にとってベストな方法を取ってほしいとお願いしている。

## 【 座 長 】

専門学科について、柏の葉高校についてはどうか。

## 【 委員 】

つくばエクスプレス開業により柏の葉地域は発展していった。調整区域に立っている高校は多いが、

市街化区域にあるのは鎌ヶ谷、柏の葉、東葛飾くらいであると思うが、生徒が集まりやすい要因になっているのではないかと。東京大学大学院や千葉大学の農場などが集積している。情報理数科においては、社会での IT へのニーズが高まり今後も人材育成が必要な分野であると思う。

**【委員】**

柏の葉地域の特色が柏の葉高校に出ている。街づくりと高校の在り方については、関連があると感じており、街が発展していき、そのイメージが子どもの進路選択にとっては、影響が大きいのではないかと。

**【委員】**

鎌ヶ谷高校は市街化区域にあり、鎌ヶ谷西高校は市街化調整区域に入る境に位置するが、将来的には、北千葉道路と呼ばれる成田から首都圏を結ぶ大きな幹線道路が通ることになっており、そこに接続する形で、都市計画道路のすぐ脇に鎌ヶ谷西高校は立地している。今、通学においては、生徒の皆さんは、田舎の道を通っているが、将来的にはそういう幹線道路沿いになっていくので、大きく街の変貌が遂げた時に、高校のあり方や高校の位置付けなどが変わってくると考えている。これは鎌ヶ谷西高校の利点であり、将来の都市計画を一つ指針として、高校や進路を選択するということも意味があるとは思っている。質問であるが、コースについて、普通科の生徒が、教育課程の一部の時間を使って、選択した分野の科目を学んでいくのか。

**《事務局》**

そうである。コースについては、普通科のその学校に入ってきた生徒が希望に応じて取ればよいということになる。その取り方も、先ほど申し上げたように、選択で取りたい生徒は選択して、その授業数も、普通科の学びをしっかりと行った上で、興味関心のある子は、該当するコースをプラスアルファで選択する。しかし、福祉コースだけは、資格を取得する関係で、教育課程にも入れ込んで学ばせている部分があるというイメージである。

**【委員】**

今、職場では大卒出身の職員を採用することが多いが、土木や保育の分野において、地元の高校の卒業生を、地元を支える担い手として採用していけると良いと期待している。

**【委員】**

生徒が集まりやすい要因については、我孫子市は交通の利便性と相関があり、市域の東西で違いがあると感じる。だからこそ、「県立高校改革推進プラン」での計画の趣旨において、「県立学校における地域の活性化への貢献」が位置付けられているように、手賀沼がある街という特徴のある環境を生かし、観光や農業、ビジネスなどの地域資源を材料として教育に生かすコースも考えられる。そして、そのことは将来の地元地域の担い手、人材づくりに生かされると考えている。

**【委員】**

災害時ボランティアセンターの立ち上げ訓練に、鎌ヶ谷高校、鎌ヶ谷西高校の生徒が参加している。要援助者を助ける担い手が高齢化していることから、機動力のある高校生の若い力が必要である。高校生が地域の活動に参加してもらい、地域に貢献していくような学校づくりをしてもらえるとよい。

**【委員】**

都市計画部門で仕事をして思うことは、都市環境や景観に興味をもつ生徒が、理工系の進路に進む前に、高校において、街づくり、環境、景観などの分野について学べるとよい。

**【委員】**

地域ごとに街の雰囲気があると思う。それぞれの地域でそれぞれの地域の方々とのつながりをもって、それが特色につながっていけば面白いと思うので、普通科において、地域の特色や魅力を出していけるとよい。また、質問であるが、文系進学や理系進学クラスなどはあるのか。

## 《 事務局 》

時代の流れとして、文理融合の傾向がある。理系だからこそ文系的な素養も必要であったり、文系だからといって理系を疎かにしてはいけないという部分もあることから、文系・理系を分ける学校が減ってきている。

## 【 委員 】

農業振興や地元の農業者を支える高校が市内にあるとよい。以前は、茨城県に農業科がある高校がたくさんあったが、今はどうか分からないが、農家の子弟が継がないという現状であり、ニーズがない。当社は我孫子市の指定管理を受けている中で、地元の従業員を7割雇用している。やはり地元の学校で学んで、将来的には都内の方の大学に進学することはあっても、地元にも最終的には戻って、地元のために働きたいとか、地元に貢献したいという愛郷心のようなものを公立高校で培ってもらえると嬉しい。

## 【 委員 】

中学校から目標がある場合には専門学科を選ぶことになるのであろうから、積極的に専門学科やコースを設置してほしい。しかし、目標が漠然としている場合はどうかとも思う。吹奏楽であれば市立柏高校や女子であれば制服が可愛い高校などを選ぶ傾向もある。例えば、音楽・美術系のコースは東葛飾地区にはないので、取手の私立高校に行ってしまう場合もあると思う。質問であるが、教員基礎コースにおいて、教員が外部講師との連絡調整を行うとのことであるが、保育基礎コースなどにおいては、外部講師はどうしているのか。

## 《 事務局 》

我孫子高校は、設置当初の校長が熱心で、学校だけでやるのではなく、教員養成系の大学に声をかけて、その先生に高校に来てもらい、教えてもらおうという方針で、数多くの大学と連携協定を締結した。コロナ前は年に1回、さわやかちば県民プラザで、教員養成系の大学の先生方を集めて、2泊3日で合宿をしていた。現在は、通いの形式にして実施している。我孫子高校の教員は何をするかということコーディネーターの役割を担っている。そして、保育コースにおいては、短大などから先生を招き出前講座を開く。コロナ前では保育園・幼稚園において実習を行っていた。生徒が学校に閉じこもるのではなく、外部の方の力を借りて、外部に出て行って、学びを深めるという形で、現在取り組んでいる。

## 【 委員 】

私学は、大学進学を大前提にしており、職業直結の学びは少ないが、皆さんが言うように。子どもたちには、様々な世界を見せることが必要である。教室にとどまらない、教科書の中に閉じこもらないという取組は増えている。子どもたちは街の宝なので、みんなで見ることで、子どもたちの力になるのではないか。話は変わるが、基礎資料を見ると、就職する生徒たちが数多くいることが分かる。高卒で就職する生徒たちへのケアはどうしているのか。地区の持ち回りで進路協議会の担当校になったとき、高校生と会社をめぐる問題として、例えば、繁忙期に内定後、研修と称して借り出されることが議題になった。

## 【 委員 】

公立高校には、上級学校に進学する生徒もいれば、卒業してすぐに就職する生徒もおり、様々である。本校でも半数ほどが就職していくが、進路指導部では、入学時から3年間かけて社会で通用する力を育てていくカリキュラムを組んでいる。全般的な傾向として、中学から高校に上がっていく段階で、自分の将来について決まっている生徒があまりいないと思うのであるが、途中で生徒の希望や考えも変わることから、魅力あるコースによって様々なニーズに対応できるとよいと感じている。一方、東葛飾中学校においては、高校受験がなく、普通の中学生と違った形で、探究的な学びなど、様々な取組ができて

## 《 事務局 》

プランP.5では、公立高校卒業後の進路状況として、就職者が県全体で16.6%となっている。就職者の割合が50%の学校もある中で、たいへん少ない数字であるが、最新のデータによればもっと下がっているのではないかと。高卒の生徒に対して、企業にとってニーズが高い傾向があるが、現状は生徒・保護者の意向は、大学・専門学校も数多く設置され、なおかつ、少子化で入りやすくなっている上に、貧富の差により、学校選択に影響が出てはいけないということで奨学金が充実してきている状況の中で、すぐ就職せず、専門学校や大学に進む生徒が随分増加している。かつて中卒が金の卵と言われた時代があったが、これからは高卒が金の卵と言われる時代が来るのではないかと。そういう中で就職せず、大学、専門学校に進学する生徒も、その先には就職のことを考えていることになるが、大学を選ぶ際に、高校を選ぶようにみんなが普通科に行くから普通科に行くというようになってしまわないように、生徒の将来の夢、目標などの思いの部分をしっかりとして作っていくことが大事である。

## 【 委員 】

高校改革においては多様なニーズに応じていくことで進められてきた。子どもたちが中学から高校に上がる時、自分の将来への方向性をどれだけ持っているかっていうところもあるが、その小さな思いを、高校に上がったときに、より大きくできるかどうかということが、専門学科やコースが関係してくるのではないかと感じている。資格が取れるコースは中学生にアピールしていき、中高連携や地域を絡めた育て方が望まれる。通信制への進学者が増加している点も踏まえ、各コースの中でも中学校と高校が連携しながら、何をアピールしていくのが大切になってくる。

### ②「総合学科」、「社会のニーズに対応した教育」について

## 《 事務局 》

総合学科については、普通科と専門学科に続く、第三の学科として生まれた訳であるが、普通科に行く生徒が多い中で、普通科に多様な生徒が進学することになり、実際、先ほども委員からあったように半分ぐらい就職するような学校もある中で、そうした子どもたちに社会に出るにあたって何の専門的な知識をつけないまま、普通科を卒業して、すぐ社会に出て、早期に離職してしまうこともある。こうしたことを踏まえ、総合学科では、社会に出るにあたって必要なことを身に付けさせるが、入学するときは普通科と同じようであり、1年次に「産業社会と人間」という科目で職業教育や将来の進路について考えさせる。2年次からコースと呼ばず「系列」というものを選択し、自身の興味関心や進路に合った学びをしていく。要は普通科と専門学科の中間的な学科として設置されるということで、千葉県の方では今6校あり、近隣であれば小金高校においては、進学を目指す生徒が多いので、進学重視の総合学科として設置したが、生徒募集において、かなりの倍率が出ているような状況である。

## 【 委員 】

教育現場の人間ではないので、よく分からないが、これまでの話によれば、コース設置について、どのようにして学校に来てもらうかという印象を受ける。昭和以降、戦後のことを振り返ると最初は大学さえ出れば、良い企業に就職できるというような社会構造であったと思うが、今はそれがかなり崩れているように思う。それは、社会が非常に複雑になって、本当に高い専門性が必要とされる社会になっており、単純に高校から大学に行けば、必ず就職し、人生が成功するというような流れにはなっていないような感じであると思う。きちんと自分はどういう特徴や特性があって、何ができるかということ全部自分の中で理解をして、それでそのコースを選択した結果、こういう仕事についていくことの方が、本来の教育に求められるのではないかとこの話を聞いて感じた。今後も生徒のニーズに応え、学びを後押しする高校であってほしい。

## 【委員】

様々な高校を訪問する機会があるが、校舎に入った瞬間に学校の雰囲気が伝わってくる。例えば、挨拶ができる生徒が多い学校とそうでない学校がある。コース設置など計画の策定とともに、総合学科での取組のように、人間教育もしっかりと行ってほしい。

## 【委員】

県立高校においては、昨今2次募集を実施する高校が増えてきている。私立高校などは色を出しやすい。公立の各校に入学するとういうこと学びができ、このような生徒を育てるということや、様々な公立の普通科高校が頑張っているところだと思える。

## 【委員】

不登校の子どもたちが現在、25万人くらいいる。また、親など家族の面倒を見なければならない子どもたちをヤングケアラーとって、社会的に問題になっている。不登校やヤングケアラーなどへの対応はどうか。

## 《事務局》

ヤングケアラーについては、児童生徒安全課が所管しており、議会等でも課題として取り上げられているが、それを一番発見しやすいのは学校であろうということで、今、そういった子どもたちが自校にいないのかというところの課題意識を持ちながら、児童生徒を把握することから始めている。そして、ヤングケアラーのための学校の設置は難しいであろう。不登校生徒の高校の受け入れについては、三部制定時制高校において、午前部、午後部、夜間部と三部に分かれており、本人が頑張れば、通常、定時制においては4年で卒業であるが、他部履修とって、午後部の生徒が午前部の科目を履修したりしながら3年で卒業できるような体制を作っている。千葉市の生浜、松戸市の松戸南、佐倉市の佐倉南で3校に設置している。また、通信制については私学の方で増加しており、私学の通信制に行く生徒が増えているが、本当に家庭が経済的に厳しい生徒に対しては、公的機関として何とかしなければならないという状況である。千葉大宮高校は千葉市の交通が不便なところに所在している。通信制高校は、全く学校に行かなくていい高校ではないので、前期後期で10日ずつぐらいスクーリングとして学校に行かなければならない。生徒のスクーリングの利便性を考え、通信制協力校として、館山総合高校の海洋校舎に設置している。今回、第1次実施プログラムにおいて、銚子商業高校にも設置することとした。さらに、地域連携アクティブスクールにおいて、不登校の生徒は、中学校で勉強できていないので、学び直しの英数国の授業を手厚く実施したり、教育相談を充実させている。小中学校においては、不登校特例校の設置について検討が進められている。